

～ロッキード P-80B シューティングスター～



[↓ 浜松広報館にある J-33 エンジン(撮影筆者)]



[後退翼への移行：F-86F 戦闘機と↓]



本機 P-80 の初飛行は、1944 年 1 月で、第二次世界大戦終結前でした。エンジン

はイギリスのデハビラント・ゴブリンをライセンスしたアリソン J-33 を搭載しました。当時は、未だジェット機をどのようなデザインにすればよいか暗中模索の時代であり、ベル P-59 などのパツとしない機体も生まれるなかで、ジェット機を実戦に投入できる(朝鮮戦争で使用)戦闘機に仕上げたロッキード社はやはり実力のある会社でした。設計者は、P-38 を設計したケリー・ジョンソンです。一見ださいデザインに見えますが、軸流式に比べ大径の遠心式エンジンを搭載しており、胴体中央を太くしてそこから主翼が延びる味のあるデザインは一目置かれるべきです。もっとも、ジェット機の進歩は早く、約 2 年半後、1947 年 10 月に初飛行した F-86 戦闘機は高速機に必須な後退翼を有しており、ジェット戦闘機の形状は、次のステージに移行することになります。

【模型について】

チェコのソード(Sword)製の 1/72 キットです。脚収容口など素晴らしいモールドのレジンパーツが入っていますが、プラパーツとの合わせに難があり、苦労しました。塗装はアラスカ配備の戦略空軍所属機で(F-80 と名前も変わっています)、デカルは寄せ集めです。(中川裕幸 2022 年 6 月・改定 2025 年 7 月)

